

フランス *France*

# マリアンヌ *Marianne*

## 「共和国フランス」の公式キャラクター、マリアンヌ



フランスの1セント、2セント、5セント硬貨。

[著者撮影]



フランス政府の公式ロゴ。

[出典: 在日フランス大使館]

また、実現には至らなかったものの、公民を育てるべく公教育の必要性も議論されていました。トリコロール(1794共和国旗として制定)やラ＝マルセイエーズ(1795共和国歌として制定)もこの過程の中で作りだされたものです。マリアンヌは、そうした種々の国家統合の過程の中で生み出された共和国のシンボルの一つと言えます。1792年に発行されたアッシニア紙幣には、マリアンヌとその足元にル・コック(雄鶏)が

フランスの1セント、2セント、5セント各硬貨には、EUを象徴する12の星がちりばめられ、中央には女性の顔、その右には“République Française”を表すRFの文字が大きく配置されています。この凛々しい女性は、通称「マリアンヌ」。彼女は仮想の人物ながらフランス共和政のシンボルとして定着しており、現在のフランス政府も、トリコロールとマリアンヌを公式ロゴとして採用しています。最も有名なマリアンヌは、ドラクロワが七月革命(1830)を題材とした作品「民衆を率いる自由の女神」で、三色旗を手に、胸を露わにして屍を乗り越える勇ましい姿かもしれません。フランスからアメリカ合衆国に独立100周年を記念して贈られた「自由の女神像」(1886完成)は、マリアンヌのバリエーションの一つと言えるでしょう。これまで、フランスの切手や紙幣などの素材として幾度にもわたり選ばれ、フランス国民に愛されてきました。

## マリアンヌと「国民」の創出

マリアンヌは現在、フランス第五共和政の正式な「キャラ」となっていますが、その起源は、フランス革命期(1789-1799)にさかのぼります。革命を推進する勢力は、王政を否定し、共和国フランスを立ち上げる中でフランス国民を創出しようとします。その試みは、徴兵制の導入(1793)や最高存在の祭典(1794)などに具現化され、また



描かれ、「共和国フランス」が強調されています。発行の日付を見ると、共和政開始直後、ルイ16世紀の処刑直前に発行されたものと分かります。アッシニア紙幣がデザインされた背景を考えると、現在のフランスユーロコインのデザインに込められた力強いメッセージを読み取ることができます。

ドラクワ「民衆を率いる  
自由の女神」（1830年）



アッシニア紙幣 [著者撮影]

## 参考文献・画像出典

- 『詳説世界史B』(山川出版社, 2017年)
- 在日フランス大使館: <https://jp.ambafrance.org/-Japonais->
- 資料提供: 阿部泉(埼玉県高等学校教諭)

## オ ス ス メ の 一 冊



ルイ16世／ベルナール・ヴァンサン著  
神田 順子 訳（祥伝社, 2010年）

【請求記号】2800:2489:3

フランス革命は、歴史的できごととしては、多くの人を引き付けてやまない魅力的な研究テーマで、日本においても多様な文献が手にできます。その全てを読むことは不可能ですが、ルイ16世をテーマとしたこの1冊を紹介いたします。従来、優柔不断のレッテルが貼られ、力なく処刑された王というイメージがありました。20世紀終わり頃から再評価されており、この本はそうした新しいルイ16世像を描いたものの一つです。

## 執 筆 者 紹 介

中澤 登水子／国際・公共政策大学院1年

お菓子が大好きです。

本職は公立高等学校教諭、世界史を担当しています。

